

ぶれいおん・とかち 企業・団体サポーターの皆さま

(2023.8月現在 敬称略)

あおばクリニック / 石橋農場 / 磯部鉄建(株) / エステティック美萌 / 大和田心療内科
 (株)帯広公害防止技術センター/帯広信用金庫/おびひろ清流歯科クリニック/音楽セラピー樹音
 学研森の里・めむる教室 / 久慈建築工房(有) / 栗林建設(株) / (有)慶愛病院 / 鈴木書店 / てあてやさん
 (株)ティーケーコーポレーション / デジタルグラフィックス(株) / 東光鋪道(株) / 十勝三菱自動車販売(株)
 (株)ドリームパーク / 人形劇団えりっこ / ハウジングオペレーション(株) / (株)ビルテクノス
 フラ・ハーラウ・ビュアレイ / (有)北斗 / (公財)北海道医療団 / 北海道の小麦パン里のあかり / (株)ホーム創建
 みなみ町こどもクリニック / 芽室幼稚園 / やよい乃湯 / 勇昇印刷(有) / 横手内科クリニック 他 1 件

《ご寄付の方法》

個人サポーター 一口 3,000円/年

法人・団体サポーター 一口 10,000円/年

単発のご寄付として、遺産・相続財産や、企業のCSR活動の一環によるご寄付も随時受け付けております。

・WEB

寄付サイト「Syncable(シンカブル)」にてクレジットカード、Amazon Pay決済が可能です。

Syncable



・現金

ぶれいおん・とかち事務所に直接お届けください。ご連絡いただければ集金に伺うこともできます。

・振込

ホームページ・お電話・メールにてご連絡の上、下記口座あてにお振込みください。

※ご連絡をいただければ、ゆうちょ銀行の払込書をお送りします。

■帯広信用金庫 中央支店 (店番号002) 口座番号：(普通) 0135371

特定非営利活動法人子どもと文化のひろばぶれいおん・とかち理事今村江穂
 トクヒ) コドモトブンカノヒロバブレイオントカチリジミマラムズホ

■ゆうちょ銀行 二七九 (ニナナキュウ) 店 当座 0050014

ゆうちょ銀行間の場合、02780-2-50014 ぶれいおん・とかち



・Amazon「みんなで応援プログラム」欲しいもののリストを公開しています。

・未使用の切手、書き損じハガキ 事務所に郵送などお届けください。

・「イオン幸せの黄色いレシート」毎月11日にイオン帯広店でお買い物をするときと受け取ることができる黄色いレシートを「ぶれいおん・とかち」のBOXに投函いただくと【レシート合計金額の1%分の贈呈額】が当団体に寄付されます。

発行・編集

認定NPO法人 子どもと文化のひろば

ぶれいおん・とかち



〒080-2470 北海道帯広市西20条南5丁目18-2

Tel / Fax 0155-36-0560 (平日10-15時)

メール info@play-on-tokachi.net

LINE @playontokachi

HP http://www.play-on-tokachi.net



facebook



Instagram



PLAYONTOKACHI

第18期 年次報告書

2022.9 ~ 2023.8



・ contents ・

団体概要… 1

第18期 事業報告… 2 ~ 14

第18期 会計報告… 15

ぶれいおん・とかちのあゆみ… 16

メディア記録… 17

スタッフ紹介… 18



認定NPO法人 子どもと文化のひろば

ぶれいおん・とかち



「あつまろう！子ども真ん中 みんなの居場所」

を目指して

ぶれいおん・とかちは、あそびや体験を中心とした活動を通じて、乳幼児から祖父母世代までの多世代がゆるやかにつながり合い、子育て親育ちができる環境づくりに取り組んでいる非営利の民間団体(NPO法人)です。1973年「十勝おやこ劇場」設立から、1988年「帯広西おやこ劇場」分割設立を経て、2006年に現在の名称で法人化。「ぶれいおん(Play on)」には、「もっと遊ぼう!」「みんなで遊ぼう!」という思いを込めました。

前身おやこ劇場の創立から50年。子どもを取り巻く環境はめまぐるしく変わっていきいますが、「子育てはみんなで～子どもも親も人と人との関わり合いの中で育つ」という普遍的価値を大切に守りながら、活動を続けています。

- 名 称 認定特定非営利活動法人 子どもと文化のひろば ぶれいおん・とかち
- 所在地 北海道帯広市西20条南5丁目18-2
- 役 員 理事長 今村 江穂 / 理事 13名 / 監事 2名
- 会員数 【正会員】 143世帯 430名
会費 個人会員：1,200円/月
家族会員：2,200円/月
※第一子未就学児世帯、非課税世帯、十勝管外在住者に割引あり。
【サポーター会員】 個人84名 / 法人・団体34件
サポーター会費 個人 一口 3,000円/年
法人・団体 一口 10,000円/年

※2023年8月末現在

●事業内容

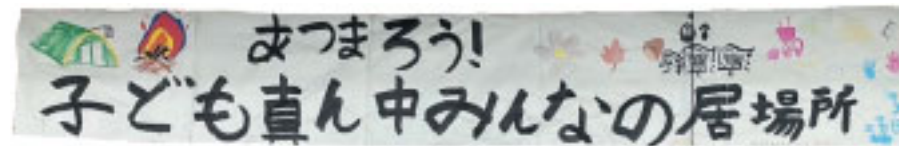
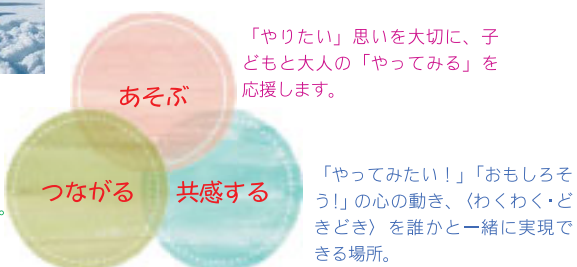
- ・芸術文化体験事業
- ・生活文化体験事業
- ・子育て支援事業
- ・地域ネットワークづくり事業
- ・広報誌発行事業



子どもにも大人にも、安心できる人と人とのつながりが、網の目のように広がっていくように。つながり合いのネットワークが子育て親育ちを支えます。

●受賞等

- 2018年 北海道「ほっかいどう未来輝く子育て大賞」
- 2020年 非営利組織評価センターによる評価
「グッドガバナンス認証」
- 2020年 内閣府「子どもと家族・若者応援団」
子育て・家族支援部門
内閣府特命担当大臣表彰
- 2023年 全国森林レクリエーション協会
地域美しの森づくり活動コンクール
特別奨励賞受賞



18 期を振り返って



理事長 今村江穂

コロナ禍、子どもたちの生活に電子メディアが加速度的に浸透し、リアルな体験の場や機会が減少しました。国がICT教育(教育のデジタル化)を推進する背景もあり、変わりゆく世界の中で子どもの育ちを見守り、声を上げ、タイムリーにアクションすることの大切さを日々感じています。

今期は、妊娠期から乳幼児期の不安感、孤立感を解消するための居場所として、「赤ちゃんの日」事業に着手。助産師の専門的なサポートプラス仲間づくりの場を確保することで、子育てのはじめの一步をポジティブに歩みだせるように取り組んできました。また、2022年度「不登校」の子ども数が24万人と過



去最高の数字を更新し続ける中で、子どもたちの多様な学びや安心して過ごせる場を確保するために関係機関と連携し、5月から小・中・高校生のフリースペース「アトリエスペース」を開始。平日に週1日、会員に限らず2階とホールの開放を始めました。この他、昨年に引き続きぶれいおんの所属する町内会子ども会との連携で、「こども夏まつり会」を実施。“参加し体験する”中身は、〈お客さんとして〉だけではなく、準備段階から協力して〈役割を担って面白がる〉側面が欠かせません。各所で停滞、衰退する地域活動の課題ともリンクしており、担い手不足をどう打開していくかがこれからの大きなテーマです。

「組織・運営改革検討委員会」(通称: 持つ会) の取り組み

昨年1年間、10名の委員で計10回の話し合いの他、中間報告、今年に入って提言書報告を兼ねた意見交流の場を持ち、持続可能な組織・運営のしくみをどう作るか、議論を深めてきました。会が歴史を経るに連れ、ぶれいおんに所属する動機や事業に対するニーズややりたいことなど、個々の会員の違いが大きくなっていること、運営に携わる人たちの負担感や、事務局の疲弊が課題となっていて、これまで通りの組織運営のしくみでは運営自体が難しくなってきたことを確認しました。その上で、「子どもたちを真ん中に」「聴き合う関係」「私も大切、あなたも大切」「楽しく、未来のために」など、大切にしていきたい考え方を共有。しくみづくりの方向性として、発言の機会をつくる、聴き合う会や学習会などを通じて、理解し合うこと、運営委員会やブロックの役割、事業の見直しなど、負担感を軽減することを掲げました。これらを念頭に、新しい組織・運営改革案を秋の総会で提案し、年内には新体制の人事承認(臨時総会)を経て、来春の始動をめざして進めています。

事務局のまとめ

前期より取り組んでいる組織改革について、「持つ会」提言書を取りまとめ、今期の総会提案に向けて会員への資料作りや説明会等の設定など、整理と情報共有の一年となりました。また大型の助成金事業(WAM)の最終年度としてのとりまとめ、さらに認定NPOの更新を7月に迎え、改めて資料書類等のまとめ直しにも取り組みました。

組織の変化に向けて、事務局業務の整理に取り組む必要がありましたが、なかなか着手できず次期への繰り越しとなっています。



事務局長 羽賀陽子

第18期 事業活動報告
2022年9月1日から2023年8月31日まで

体験事業	芸術文化	「糸あやつり人形作りWS」	2022.11.26	@芽室町中央公民館	25名
		人形劇団ココン『トレテツクパレード』	"	@芽室町保健福祉センター	93名
		『マリオネットの小さな作品集』	27	"	115名
		チリンとドロン『小さな家』	2023. 5. 7	@とかちプラザ大集会	148名
生活文化体験事業		〈りとるびーんず〉 幼児～小学生対象 アート体験・表現あそびプログラム	2022.10. 2 2023. 1.28 5.27 8.11	カブラで遊ぼう 墨であそぼう お茶会 玉ねぎの皮で染めるカワイイ黄色	37名 24名 22名 25名
		〈あそびやかるチャー〉 小中高校生あそび体験プログラム	2022. 9. 2 11.19-20 2023. 1.7-9 2.11-12 2.18 3. 4 3.4-5 6.24 7.22-23 7.15 8.11-13 8.19	キャンプ報告会 秋合宿 スキー合宿 雪中アドベンチャー スキー報告会 クイズ大会 OTOMARIKAI お泊まり会参加者向け説明会 夏のお泊り会 高学年キャンプ全体集会 高学年キャンプ 高学年キャンプガチ反省会	14名 21名 17名 28名 19名 25名 19名 16名 36名 15名 32名 15名
		〈あしあとの森〉 幼児～大人対象 あそび&森づくり ※コープ未来の森づくり基金 (2022年度/2023年度) ※帯広市緑の募金緑化活動助成 (2022年度/2023年度)	2022.10.17 12.11 2023. 2. 1 4. 9 6.25 8.27	はぐくむ秋まつりブース協力 つる切り、リースづくり、薪割り 薪ストーブ、冬の森あそび 間伐材ベンチづくり、木こり体験他 草刈り、オオアワダチソウ抜き、他 間伐、虫捕り、オオアワダチソウ抜き	21名 55名 53名 42名 37名 29名
		〈ちいさなあしあとの森〉 幼児～大人対象 森のあそび	2022. 9.25 11.20 2023. 1.15 3.26 7.30	森あそび " " " 川あそび	33名 37名 20名 23名 21名
		〈子ども参画事業〉 小学生以上の自主活動	2022. 9.10 ～6.17 7.30 2023. 3.31 8.10	C U 自由あそび 13回 C U ぶれい中 一日パティシエ パスカで絵をかこう	延べ77名 中止 11名 8名
子育て支援事業		《帯広ファミリーサポートセンター》 ※帯広市委託事業	11.8-11.17 12. 6 2023. 2.22 5.29-6.15	提供会員育成講習会(全6日) 会員交流会「簡単手作りおもちゃ」 提供会員茶話会 提供会員育成講習会(全6日)	延べ207名 7名 10名 延べ201名
		〈プレイセンター にじっこ〉 未就学児と親のあそびと学びの場 あそびのセッションと親の学び ※WAM助成事業 (2022年度)	2022. 9.～ 8.31 2023. 3. 4	週2回 計97回開催 「子ども家庭庁で子育てどう変わる？」 佐藤純子氏講演会	延べ1,686名 110名
		〈赤ちゃんの日〉 妊婦と乳児の親の交流、学びの場 ※WAM助成事業 (2022.9～2023.3) ※帯広市市民提案型協働のまちづくり 助成事業 (2023年度)	2022. 9.～ ～8.21	月2回、計22回 毎回テーマを設けたミニ講座と交流タイムを実施。 テーマ：赤ちゃんの寝かせ方、助産師さんに聞いてみよう、抱っこ仕方、わらべうた、パパの日、パートナーと女性ホルモン、離乳食と幼児食、子育てのことで何でもシェア会、身体リフレッシュヨガ、赤ちゃんのお世話、お産の話、ケガや病気の対処法、赤ちゃんの基本、防災の話、言葉を育てる関わり方、産前産後の身体づくり	延べ215名

地域ネットワークづくり事業	〈図書部〉	2022. 10 2023. 3.13 6.21	かがり火発行 ミニ本の交流会 本の交流会	220部 11名 10名
		2023. 1.10 8. 8	〈冬・夏の寺子屋〉 会員お楽しみ企画	25名 16名
		2023. 2.23	〈百人一首交流会〉	第32回 下の句カルタとり 50名
		2022. 9.10 ～2023.7.9 8. 6	土曜地域開放あそび場しゃべり場 ※キリン福祉財団助成事業(2023年度)	ボードゲーム、卓球、工作etc 月1回 計11回開催 延べ200名 約200名 こども夏まつり会
発行事業	広報誌	2023. 4. 1 5.11～8.31	〈新〉〈アトリエスペース〉 小学生以上のフリースペース 毎週木曜日 9:30～14:00 ※キリン福祉財団助成事業	にじみ絵体験 木曜スペース 17回 その他小学生以上のフリースペースとして開放 12名 延べ60名 ※未集計
		2023. 5.21	〈森のこどもらんど〉 ※コープ未来の森づくり基金(2023年度) ※帯広市緑の募金緑化活動助成(2023年度)	帯広の森はぐくむ周辺 300名
		2022. 10	〈『コノコト』発行〉 “流されない育児のためのワンテマ情報誌”	第8号「子育て中のあなたへ」 帯広市乳幼児健診時(7か月・1歳半)配布 4,000部
法人本部	財政、組織、広報の戦略・研修	2022. 9.11 2023. 1.22 1.30 5.16、26	持つ会中間報告会 持つ会最終報告会 もっと知りたい 舞台のしくみ 会員懇話会①、②	24名 10名 13名 37名

延べ 4,617人

《表 彰》

○全国森林レクリエーション協会 地域美しの森づくり活動コンクール特別奨励賞受賞 2023.6

《連携、協力》

○帯広の森・はぐくむ：あしあとの森、森のこどもらんど、プレイセンターにじっこ、はぐくむ秋まつり他
○帯広市市民福祉部子育て支援課：ファミリーサポートセンター事業受託運営、「コノコト」他配布依頼 他
○NPO法人子育て応援かざぐるま：「子育て応援ブック解説&活用法研修」／事務局協力 2022.9.6
○十勝教育研究所：「十勝教育研究『教育現場への期待』」／執筆協力：今村 2023.3 発行
○帯広市教育委員会：オンライン学習プラットフォーム「ひろびろチョイス」との連携（アトリエスペース）2023.5～
○天理教少年会：「さんさい5月号『タテヨコだけじゃない！子どもの人間関係』／取材協力：羽賀 2023.5 発行
○NHK帯広放送局：「NHK北海道」出演及びキッズスペース開設にあたりヒアリング／2023.5～6
○一般社団法人 CAN net：「社会的処方MAP十勝帯広編『子育て支援』」／2023.7 発行
○帯広市20条希望町内会：こども夏まつり会／2023.8.6
○帯広市市民大学講座：「子どもが育つ街づくり～地域の中で、みんなで子育て」／講師協力：羽賀 2023.3.8
○帯広財務局：「子育て世代のお金の話」開催／協力：プレイセンターにじっこ 2023.6.28
○FM WING：「ぶれいおん・とかち虹色ひろば」毎月1回出演

《参 画》

○帯広市青少年問題審議会（委員：羽賀） ○帯広市民文化ホール運営審議会（委員：羽賀／山本）
○芽室町社会教育委員（委員：嶋野） ○芽室町文化芸術鑑賞会検討委員会議（委員：嶋野）
○NHK北海道地方放送番組審議会（委員：今村） ○こども環境学会（こども環境アドバイザー：今村）
○十勝子どもの居場所・学びネットワーク協議会 輪～む ○帯広の森50周年記念事業実行委員会（委員：今村）

生活文化体験事業 あそぶ・体験する

主体的な学びの土台は、好奇心ややる気を存分に満たす体験やあそびから育まれます。子どもはあそびを通じて、好奇心や意欲、人とのコミュニケーション、社会性など、生きていく上で大切な力を養っていきます。今期も、コロナ禍にめげず、家庭や学校では体験できないようなワクワク・ドキドキ体験の場をさまざまに提供してきました。

あそび×森づくり×多世代コミュニティ あしあとの森

協力：帯広の森・はぐくむ
※コープ未来の森づくり基金助成事業
※帯広市緑の募金緑化活動助成



帯広の森の一角で森のあそび場づくりに取り組んで5年目。少ないスタッフの中、無理なく、森の保全と子どもたちの遊びの場をつくることができました。大人だけでなく小さな子どもたちも、遊びながら森のしごとの楽しさを体験することができたと思います。今期は広報まで手が回らず、新規の参加者が少なかったことは反省材料です。来期は広報活動にも注力しつつ、活動自体は今までと変わらず、参加者がそれぞれのペースで森の保全活動をしたり、遊んだりする場を継続していきたいと思っています。



あしあとの森
部長
嶋野 丈治

森のあそび 小さなあしあとの森



森の中で遊ぶ機会を増やそうと、「あしあとの森」が実施されない奇数月に実施しました。スタッフ体制も十分でないことから、参加者に協力してもらいながら無理せず活動しました。みんなで持ちよりの材料で作った鍋を食べたり、自然素材で遊んだり、豊かな時間を過ごすことができました。「あしあとの森」との違いなど分かりにくさが課題になっていたことから、次年度は「あしあとの森」と一本化し、非会員も参加できる形で再始動します。



小さなあしあとの森
部長
大熊 勲

アート・表現あそび りとりびーんず

今期はスタッフが増え新体制での活動となりました。それにより、墨遊びのようなダイナミックな遊びができ、幅広く充実した活動ができました。カプラ・お茶会・染物と、講師がいる企画も家庭だけでは経験できないことなので、親子で参加してもらえたようです。スタッフだけでなく、参加者も準備や後片付けにも協力的に進めることができました。来期は今の子どもに足りない遊びにも目を向けながら活動したいです。スタッフの人数が増えれば【思い】もそれぞれ。来期はりとりびーんずの軸をしっかりと固めて方向性がぶれないようにし、参加者の心にワクワクの種を蒔きたいです。



りとりびーんず
部長
山本あゆみ

若者が創り出す あそび屋かるちゃー



あそび屋かるちゃー
部長
安宅 央喜

2泊3日の高学年キャンプなど実施。参加者は減少傾向ですが、企画者は過去に参加者として関わってきた子どもたちが、大人になって担い手となることで増加しています。この活動を通して人間関係を育み、緩やかにつながり続けてきた成果です。都合により企画に参加できない子とつながり続けていけるように、工夫していきたいと思っています。



子どもたちと自分たちが楽しむことを目的に、年齢を超えてありのままに関わりつながっていただけることは、現代の社会の中でとても幸せなことです。そんな意義を感じながら、これからも細々と続けていけたらと思います。

非日常のダイナミックなあそび体験 冬・夏のお泊まり会

「自然の中で、いろんな年齢の人と、家ではできない非日常的な体験を！」をコンセプトに、小学生以上を対象にした1泊2日の活動です。コロナの影響を受けていた冬のお泊まり会も3年ぶりに宿泊することができました。冬は広大な雪の斜面を何度もソリで滑ったり、かまくらを掘ったり。夏は川遊びにキャンプファイヤー、虫取りなどしてとことん遊びました。また、みんなでする夜ふかしや食事や掃除など、たくさんのリアルな体験ができました。子どもたちの体験活動が減っている今、活動の意義を共有し、継続していきたいです。



冬のお泊まり会



夏のお泊まり会

“やってみたい”にチャレンジ 子ども参画



CU

子どもたちがやってみたいと思ったことにチャレンジする場です。「CU（中学生～20歳のグループ活動）」では、月に1度集まり「ぶれい中（鬼ごっこ）」企画などに取り組みました。部活や学習などで集まるのが難しい状況もありますが、今後も不定期で継続します。

この他、単発の子ども企画として「一日パティシエ」「パスカで絵を描こう」など実施。今後子どもたちが主体的に企画づくりの体験ができるよう、まずは日常的なつながりや子どもの居場所づくりが必要であると考えており、他事業との連携を図りながら取り組んでいきます。



一日パティシエ
企画担当
山本 樹さん
(小4)

子育て支援事業 みんなで子育て

たくさんの人の輪の中で、大らかに子育ても親育ちもできる環境が求められています。子育て支援は「網の目のように」と言われます。助け合い、支え合えるつながりを増やし、網の目を細かく、そして太くしていくことで、地域の親子は安心して子育てを楽しむことができます。ぶれいおんでは、“困ったときはお互いさま”市民同士の支え合いの活動ファミリーサポートセンター事業の他、プレイセンターにじっこ

プレイセンターにじっこ ※令和4年度社会福祉振興助成事業（WAM助成） 2022.4～2023.3

プレイセンターの3本柱である【遊び】【親の学び合い】【協働運営】を軸に、乳幼児親子が仲間と一緒に子育てし、“親子で一緒に成長する場”を継続しています。転勤、復職、子の就園などで卒業していくメンバーがいる一方で、新たに入会してくれる人も常にあり、その時々



参加メンバー28組 ※2023年8月現在

『参加者の声』



宮田 美咲

入会する前まで、知り合いのいない帯広での初めての子育て。ほぼ1対1の毎日。見よう見まねの育児ができない、今ここに一緒に子育てする人がいない、「こどもまんなか」とは程遠い、娘と私二人だけをつないだ直線のような生活でした。

にじっこでは、大人たちが手を取り合って円陣を組むという役割があります。こどもにとっては、どこを向いても見守りの目・優しさ・愛情が感じられ、「自分はまんなかに居る」感覚が、なんだか自信满满で幸せそうなのが子の姿につながっているのかな、と感じています。



活動紹介



報告書

今期の活動を振り返って



スーパーバイザー※
宮田真理子

にじっこ創設から5年が経ちました。今期中でWAM助成金が終了しましたが、工夫を凝らし、これまでとほぼ変わらない内容で継続できました。「赤ちゃんの日」の参加者がにじっこへ来てくれたり、帯広市サークル体験会から入会してくれた人たちもいました。

「協働運営」では、代表さんが“やってみたいこと”を活動に反映させるスタイルが定着。経験者からは、「関わりが深くなった」「完璧に準備しなくても、困ったらみんなが各々のやりたいこと、できることで手伝ってくれるので楽。メンバーのみんなすごい!」「負担でもなく、ちょうどいい役割感」との声があり、1人1人の力を自然に発揮できる場になっています。孤独になりがちな乳幼児期の子育ても、「仲間と一緒にあそび、学ぶことですごく楽しい♪」と1人でも多くの方に実感してもらうために、今後は体験会や広報にも力を入れ、参加のハードルを下げられたらと考えています。

※スーパーバイザー 日本プレイセンター協会認定。活動を見守り、“みんな子育て”を支えています。

赤ちゃんの日

※令和4年度WAM助成事業(2022.9～2023.3)

令和5年度帯広市帯広市市民提案型協働のまちづくり支援事業(2023.4～2024.3)

妊婦さん、おおむね0歳児の親子対象/月2回開催

コロナ禍で消失していた妊婦～乳児親子の居場所づくりを目的に活動を開始し、2年目の活動でした。居場所機能に加えて、子育てに関する学びやスキルも習得できるように「抱っこ」「離乳食」「防災」など毎回テーマを設けた講座と、後半には交流タイムを設ける形式で実施しました。リピーターが多く和やかな仲間づくりの場になっています。

次年度は、ファミリーサポートセンター事業やプレイセンターにじっことの連携もより強化し、支え合える「網の目」を広げていきます。



赤ちゃんの日スタッフ
築紫 悠

「家にいれば、自分の子しか目に入りませんが、赤ちゃんの日に足を運べば、毎月他の子の成長も見ることができるので嬉しいです。」参加者からの声です。また、参加者どうし何度も顔を合わすうちに「〇〇ちゃん、大きくなったね」「もうお座りできるようになったんだね」と自然と会話が交わされるようになりました。

わが子以外に目を向ける時間があり、いつも見てくれる人がいるというのは、お母さんにとって安心感をもたらします。信頼関係の構築には時間がかかりますが、時間をかけて関わることの重要性を改めて感じています。

帯広ファミリーサポートセンター 帯広市委託事業

ファミサポ会員のみなさまのご協力のもと、事業運営を受託し10年目を迎えることができました。コロナ禍の影響もありながら、利用、提供ともに会員数は年々増加、また2回の提供会員講習会受講者も定員に近い人数で実施することができました。講習会にはこれまでより若い世代の参加が増え、働きながら、また子育てしながら援助活動いただける方が増えています。しかし、実際に活動ができる会員数はまだ少なく、一部の会員の負担が増えたり、送迎を中心に多くの依頼に応えきれない状態となっています。

ひとり親や多胎児、非課税世帯など、困難を抱えた子育て家庭へのファミサポ利用料助成の要望を行政へ届け続けていますが、まだ実現には至っておらず、力不足を感じています。本当に必要な家庭に支援が届けられているのか、セーフティーネットになっているか、行政とも連携し、日々情報や知恵を集めています。

スタッフの研修として、全国研修交流会、全道意見交換会にもオンライン参加。2年目、3年目のスタッフのスキル向上にも取り組んでいますが、常勤スタッフが不在のため、情報共有を日々工夫しています。



会員数789人（対前年+54人）、援助活動件数1,674件（対前年+164件） ※2023年3月末現在

芸術文化体験事業 舞台をみる

家族や友だちなど身近な人と一緒に、ワクワクドキドキの生の舞台に触れる体験は、想像力や共感性、人への信頼感を養うなど、子どもの豊かな心を育みます。子どもの感性を刺激し、心が躍動するような文化芸術に触れるきっかけとして、プロのアーティストによる子ども向けの舞台鑑賞事業に継続して取り組んでいます。

※芽室まち育て助成金事業
協賛：北海道ろうきん帯広支店 共催：育児ネットめむる

◆人形劇団ココン 『糸あやつり人形づくりワークショップ』 2022.11.26@AM @芽室町中央公民館 参加25名



“オリジナル糸あやつり人形を作って動かしてみよう”という小学生以上対象のワークショップ。空き缶をボディに、布などを用いて作り上げた人形を実際に動かしながら、糸あやつり人形の操作性や、表現のおもしろさを体験できました。このワークショップを体験することで、公演中の人形の動きや、演者の表現方法などにも関心を持てたようです。

※参加者の感想

- ・人形づくりが面白かった。もっとふくざつな人形も作りたい。(小6)
- ・実際に自分があやつってみて、人形劇の難しさがわかりました。極めることって凄いなと思いました。(大人)

※芽室まち育て助成金事業
協賛：北海道ろうきん帯広支店 共催：育児ネットめむる

◆人形劇団ココン 『マリオネットの小さな作品集』 2022.11.27@AM @芽室町保健福祉センター 115名



洗練された音楽や美術、人形遣いなど、総合芸術としての糸あやつり人形劇の見どころが満載のステージでした。小さい子どもから大人までがたっぷり楽しめる小作品集でした。

※参加者の感想

- ・ココンのおじさん自体が楽しい。選曲のセンスもすばらしく、とてもアカデミックで良かったです。大人も楽しい。(大人)
- ・もう、糸あやつりの技術の高さに感動。ストーリーも大人が楽しめる内容で(シュール!)お見事。さすがココンさん!!(大人)

※芽室まち育て助成金事業
協賛：北海道ろうきん帯広支店 共催：育児ネットめむる

◆人形劇団ココン『トレテックパレード』 2022.11.26@PM @芽室町保健福祉センター 93名



観る人の想像力を刺激する人形の造りやストーリー展開が観客を魅了しました。多くの中学生も参加してくれましたが、糸あやつり人形が繰り広げる物語の世界観が、新鮮な感動を与えてくれたようです。終演後の質問コーナーでの演者との対話で、人形操作の仕掛けや素材の工夫なども教えてもらいました。

※参加者の感想

- ・ぶひんが細かった。(小6)
- ・人形劇初めて見たけど意外とおもしろかった。いろんな作業を一人でしたり1人で手足を動かしているのがすごかったです。(中学生)
- ・人形の表情はそんなに変わらないのに、生きているかのような雰囲気や命が宿っているなと感じました。それだけの細やかな動きが素晴らしいかったです。(大人)

◆チリンとドロン『小さな家』 2023.5.7@AM @とかちプラザ 148名



昨年の屋外コンサートに続いて、今期はおはなし仕立てのコンサートを開催。ゆっくりとしたリズムや、柔らかな歌声が心地よく、小さい子どもたちも集中しておはなしの世界に浸っていました。デジタルではない生の音や演者の息遣い、会場の空気感など、子どもたちが五感を刺激され心が動き出す様子を、目の当たりにできたのではないのでしょうか。

※参加者の感想

- ・たくさんのしなやかな楽器で目でも耳でも楽しめる内容でとても楽しかったです。(大人)
- ・子どもは歌とダンスが好きなのできくと喜ぶだろうと思って連れてきたら目をキラキラさせて世界にひたっていました。(大人)

地域ネットワークづくり事業 つながる

「情報はあふれていてもリアルな子育てのノウハウが伝わらない」が多発する要因は、人と人とのつながりの希薄化です。“子どもは親だけでは育たない”“地域みんなで子育てを”を合言葉に、子育て中の親が孤立し不安感を抱えない地域づくりを目指してきました。ぶれいおんのひろばを地域に開放する、あそびや体験をきっかけにぶれいおんにつながる等、子育て親子の輪を広げています。

●土曜開放あそび場しゃべり場 ※令和5年4月～キリン福祉財団助成事業

毎月第2土曜の午後、地域の子どもや子育て世代が自由に利用できる地域の居場所としてぶれいおんホールを開放しています。学区内の小学生や、お孫さんを連れた近隣の方など、顔ぶれに少しづつ広がりが見え始めています。アトリエスペース※開設後は、小学生以上は2階も使用できるようになり、1階ホールでは卓球や親子のあそび、親のしゃべり場、2階は工作やゲームなど、夏には外での水遊びも解禁して、それぞれがしたいことをして自由に過ごすスタイルが定着してきました。

2回目となった「こども夏まつり会」は、町内会子ども会復活の契機となり、次年度はより協働していく機運が醸成できました。地域の活動として、エリア内の会員と町内会とで継続していける仕組みづくりが課題です。



土曜開放
スタッフ
久保 恵

※アトリエスペース

小学生以上の会員がアート活動や読書などに利用できるぶれいおんの子ども部屋

《平日の小学生以上向けの居場所づくり》

不登校の児童が増えていることや、会員内にも平日の居場所を求める声があったことを受け、アトリエスペースを平日にも活用して、キリン福祉財団の助成金を財源に毎週木曜日9:30～14:00に活動を始めました。初の取り組みのためスタッフも試行錯誤、迷いや戸惑いもありますが、参加者(親)の協力も得ながら活動を重ねています。開催頻度を増やしたり、スタッフ体制を充実させるための財源確保が課題となっており、助成金や寄付金を活用しながら、子どもも親も安心して利用できる居場所を目指して継続します。



アトリエスペース スタッフ
久保 美香 久保 恵

●森のこどもらんど「今日は森の日！」 2023.5.21 ※コープ未来の森づくり基金助成事業 ※帯広市緑の募金緑化活動助成

実施体制の見直しを行い、これまでのブロック担当制から「やりたい」という気持ちを持った実行委員を募る形で実施しました。そのことで企画数が増えるかもしれないけれど、自分たちの力でやってみようという挑戦でした。「ねばならない」から脱却し「やりたいからやろう!」の気持ちを大切に、無理なくできる形を模索し、みんなで協力することができたと思います。当日はマレにみる大雨!!でしたが、帯広市長も足を運んでくださったり、雨でも楽しめる遊びを考えたりと、今後に向けて学び多き一日となりました。



●図書部

本好きが集まり、本を介して人とつながる活動をしています。「本の交流会」「かがり火」発行、そしておはなし会開催等行っています。本の交流会は、人となりや考え方や生き方でも透けてみえるときがあり、年齢も性別もさまざまですが、本の前ではみな対等でゆっくりと緊張がほどけてゆくのを感じました。小さな子がいるとなかなか本の会は、と遠慮する方もいるかもしれませんが、本の話がしたい、本の話が聞きたいと思ったら大歓迎です。



図書部 部長 青木 景子

●夏・冬の寺子屋

小学1年生以上を対象に、夏・冬の長期休み中、ちょっと勉強してたくさん遊ぶ1日です。今期はお昼ご飯もみんなで食べることができました。家や学校とはまた違った環境で宿題をする、異年齢の子どもたちが混ざって遊ぶなど、貴重な体験と交流の場となっています。



●百人一首大会

3年ぶりに交流会として開催することができました。ここでしか会えない人との出会いもあり、北海道の伝統文化を幼児から大人まで多世代で楽しむことができました。次年度はトーナメント大会復活を期します。



広報誌発行事業

スマホやSNSの普及により、誰もがあふれる子育て情報を簡単に入手できるにもかかわらず、親たちの不安感が増すばかりです。ぶれいおん・とかちは時代が変わっても決して変わることはない「子育て文化～受け継がれてきたもの～」を発信し、親たちの戸惑いや困り感に寄り添っています。

『コノコト』 Vol.8 「子育て中のあなたへ」

2022年10月「子育て中のあなたへ」をテーマに発行。にじっこメンバーに編集やアンケートなどで協力してもらい、乳幼児の親に寄り添った内容をテーマにしました。遠慮や不安から、ついつい親だけで子育てしてしまいがちな現代の親たちへ、肩の力を抜いて仲間頼ってほしいとメッセージに込めて発行しました。今後は、子育てで「伝えたいこと」をテーマに取り組んでみよう、次号は「子どもとメディア」について特集する予定です。

また、課題となっている制作発行資金については、次年度は㈱ホーム創建さんにご協賛いただけることになり、今後も引き続き協力してくださる企業を募っていきます。



コノコト編集スタッフ



コノコト
バックナンバー

みんなで何かやろうよ 自主企画・サークル

ぶれいおんでは、会員同士でいつでも仲間を集め、趣味や興味のあることを通して交流・リフレッシュすることができます。あそび・スポーツ・音楽など、人と人が気軽につながり合える場所として、たくさんの多彩な活動が展開されています。※一部ご紹介します。他にも朝ヨガ、うたの会、ロックバンドなどの活動があります。

サポートサロンWITH

少しずつ活動が戻りつつある年になりました。百人一首大会は、「豚汁」は無かったけれどココアはあり。久々に子どもも大人も札を取り合って笑う楽しい会となりました。恒例の「ぶれいおん寄席」も2回開催。イベント終了後には「みんなで会食」がお約束のWITH。4年ぶりにお店で会食が実現して大切な時間が戻ってきました。美味しい食事とおしゃべりをエネルギーに、また来年度も活動を楽しんでいきます。



PU

父親・男性会員による交流サークル。「森のこどもらんど」やはぐくーむ主催「秋まつり」の駐車場係をエンジョイ。今年は「赤ちゃんの日」活動で「パパの日」を担当。子育てや家族をテーマに若いお父さんとの交流もできました。次年度はプロに学ぶ料理教室を計画しています。



あそびの卓球部

親子で来ていた子どもたちが入園したりと、ママは忙しくなったであろう!? その中でも、多世代で和気あいあいとやっております。1セット終わるたびに前回のスタンスを忘れてしまう(笑)右脳、左脳、鍛えること大事だよね! あそびの卓球部は楽しい場所です♪



らんらん

ぶれいおんで出逢った仲間といろんな話がしたいなあ、にじっこを卒業しても定期的に会えないかなあ、そんな気持ちで立ち上げました。講師を招いて勉強会や、近況報告、悩みを話すだけでもエンパワメントされる。ランラン♪楽しい気持ち、お互いに学び(learn)あえる、そんな場を目指しています。



むしむしくらぶ

ぶれいおんの玄関の一角に《虫×子ども×ふしぎ発見!》をコンセプトに小さな生き物コーナーを継続中です。オタマジャクシ、クワガタ、女王アリ、オケラ、アリジゴク、カタツムリなど、四季折々の虫たちが玄関で皆さんをお待ちしています。



ファンドレイジング

地域の皆さまから様々な形で

寄付をいただいています

- ・amazon「みんなで応援プログラム」
物品寄付/総額 126,302円
- ・未使用切手、書き損じハガキ 139,181円
- ・イオン幸せの黄色いレシート 29,400円 (ギフト券)
- ・amazon様より各グッドガバナンス認証団体へ 100,000円
- ・あおぞら共済様より50周年事業として 30,000円
- ・㈱ホーム創建様より「コノコト (2024.4発行分)」協賛 50,000円

温かいご支援をありがとうございます。

ぶれいおん版 ご近所づきあい ブロック活動

ぶれいおんの活動に参加する会員の中で、より地域に密着した身近な関係性を育んでいけるように、小学校や中学校校区エリアで分かれて舞台鑑賞のお当番や交流などを行う「ブロック活動」。それぞれのブロックで、構成するメンバーの個性や特技を活かして、自由度の高い活動を行っています。乳幼児から祖父母世代の多世代の交流のほか、小学校での読み聞かせ活動、居場所づくり活動への主体的な参加など、身近なエリアでの子育て親育ち環境の充実にも貢献しています。

■北ブロック



今年度はブロックの垣根を飛び越えて、みどりブロックと合同で、冬は帯広の森ミニスキー場にて大人も一緒に楽しむソリ滑り。そして夏はサケのふる里公園にて冷たい川の中に足を入れ大人も一緒に楽しく川遊び。魚やザリガニの捕り方を子どもたちに教えてもらう大人の姿も…！と色々な方との交流を深めることができました。毎年恒例の新年会では、かき氷、お菓子探し、絵本の読み聞かせを楽しみました。子どもも大人も一緒に楽しむ仲間がいるということだけで、安心して子育てができます。

今後ものんびりお茶会する日も挟みながらブロック交流を楽しんでいきましょう。



北ブロック長 織田麻衣子

■西ブロック



西ブロック長
佐藤 慶子

我が西ブロックは会員歴が長い人が多いので、まるで実家に帰ったような昭和の茶の間のような、どんなでもwelcomeな交流を大切にしています。



■南ブロック



南ブロック長
久保 恵

南ブロックは年度初めに毎月のブロック企画担当者を決めて活動しています。みんなが持ち回りで企画を考えることで、それぞれの持ち味を生かしたアイデアが出て、毎月バラエティに富んだ内容のブロック会へとつながっています。SNSやLINEなどはとても便利で、伝達ツールとしてブロック内でも活用しています。

ですが、やはり直接会い集うことの大切さを改めて痛感しています。顔を見ながらの雑談の中にきらりと光る宝物があり、会って話すことで満たされる心があります。これからも一人ひとりの「できる・やりたい」をちょっとずつ持ち寄り、集うことが楽しいブロックであり続けたいと思っています。



■芽室ブロック



芽室ブロック長
市川奈津子

来期もブロック内での交流はもちろんのこと、地域の方々との交流を深めていきたいです。

今回はコロナが落ち着いてきたおかげで、年8回のブロック会を開くことができました。特に「とびきりおいしいカレーを作ろう」のブロック会が印象に残っており、みんなで作って食べるのは楽しくて美味しいな！を実感できました。コロナでの自粛ムードに終わりが見え、やっといつもの日常が戻ってきたことが嬉しかったです。昨年からは芽室ブロックとして芽室町の家庭教育学級に登録しており、その一環でコミュニティスクール活動にも参加しています。今年は芽室小学校の裁縫授業のサポートをしました。参加したメンバーからは「最近、子どもと話す機会が減っていたけれど、久しぶりに子どもと触れ合えて楽しかった。」「学校の様子が分かって面白かった」などの感想があり、ブロック活動の幅が広がったと感じています。



■みどりブロック



みどりブロック長
三浦 勇利

今年度は、チリンとドローンのコンサートの準備のみどりブロックで担当しました。それぞれが忙し中でも協力して、無事に開催することができました。また、こどもらんどでは、アイデアを出し合い「森のおめんづくり」を企画しました。当日は、たくさんのおめんが作られて嬉しかったです。ブロック会では、クリスマス会を開いたり、他のブロックと合同で集まったりして、会員同士の交流を深めました。今後も、みんなで楽しく活動をしていきたいです！



■青年ブロック

今年度も、大人も子どもも関係なく一緒に楽しさを共有するスタンスが活動にもしっかり現れていたと思います。

社会では、子どもたちの経験の幅がより一層狭くなっていると感じています。人間関係も固定化、画一化の流れが止まりません。そんな中、青年活動では、年齢も仕事も性格もバラバラな大人たちが、サービスではなく自分たちが楽しむために子どもたちと関わっています。だからこそ、ありのままを認め合える人間関係を作っていけるのではないかと思います。時には失敗してしまうこともありますが、皆さんにも青年という存在を知ってもらい、温かく見守ってもらえれば嬉しいです。



青年ブロック長
安宅 央喜



第18期 決算報告

活動計算書

自2022年9月1日 至2023年8月31日 (単位: 円)

科 目	細 目	18期決算金額	前年比
経常収益	【受取会費】	正会員受取会費 2,983,600	101%
	【受取寄付金】	賛助会費、その他寄付金 1,746,256	107%
	【受取助成金等】	受取助成金 2,811,671	52%
	【事業収益】	芸術文化体験事業収益 (399,100)	51%
		生活文化体験事業収益 (1,262,600)	160%
		子育て支援事業収益 (77,760)	77%
		ファミリーサポートセンター事業収益 (5,198,075)	104%
		地域ネットワークづくり事業収益 (92,521)	84%
	【その他収益】	雑収益 29,191	50%
	経常収益 計	14,600,774	87%
経常費用	【事業費】	人件費 5,746,769	103%
		諸謝金 1,033,627	54%
		印刷製本費 648,636	81%
		会議費 113,700	88%
		旅費交通費 958,077	101%
		通信費 607,427	101%
		備品消耗品費 785,899	32%
		地代家賃 648,000	100%
		水道光熱費 348,025	108%
		保険料 267,365	92%
		イベント諸経費 468,360	132%
		減価償却費 281,297	84%
		その他経費 253,895	69%
	事業費 計	12,161,077	83%
	【管理費】	人件費 1,981,104	105%
		その他経費 500,172	90%
	管理費 計	2,481,276	102%
	経常費用 計	14,642,353	85%
当期正味財産増減額		▲41,579	
前期繰越正味財産額		2,229,612	
次期繰越正味財産額		2,188,033	

サポーター会員数118 (個人84、法人34)
Amazon寄付、切手寄付を含みます
大型のWAM助成が3年で終了しましたが、プレイセンター、森の活動、地域交流活動等に助成を受けました。
宿泊企画の参加者増により増額しました
帯広市委託事業です

助成金事業の講師謝金やスタッフ謝金が減少しました

宿泊企画バス代、劇団の旅費が増加しています

カラーベンチや子ども用椅子等購入しました。助成金での備品等購入が減少しました

宿泊企画の参加者増により経費が増えています

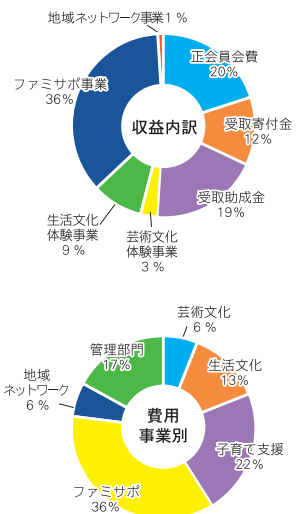
役員報酬360,000

総会や組織改革会議費、寄付者・会員向け通信費、税理士相談料等に支出しました

貸借対照表

2023年8月31日現在 (単位: 円)

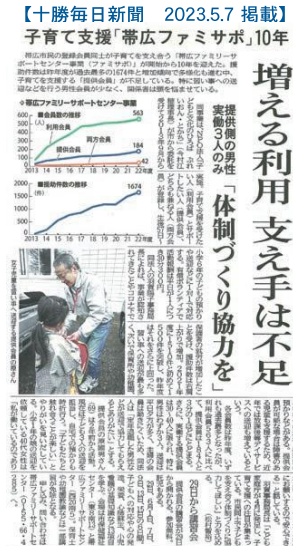
資 産 の 部		負 債 ・ 正 味 財 産 の 部	
科 目	金 額	科 目	金 額
【流動資産】		【流動負債】	
現金・預金計	2,031,093	前受金	274,285
未収金	74,843	預り金	36,819
貯蔵品	117,276	流動負債 計	311,104
前払費用	60,000	負債合計	311,104
流動資産 計	2,283,212	正味財産の部	
【固定資産】		【正味財産】	
什器備品	155,925	前期繰越正味財産額	2,229,612
敷 金	60,000	当期正味財産増減額	▲41,579
固定資産 計	215,925	正味財産 計	2,188,033
資産合計	2,499,137	負債及び正味財産合計	2,499,137



ぶれいおん・とかちのあゆみ

西暦	主なできごと	期	会 員 世帯数
1972	十勝おやこ劇場準備会発足		
1973	十勝おやこ劇場活動開始		
1984	〃 分割決議 (会員数約1,700人-帯広西、帯広東、音更に3分割)		
1988	11.3 帯広西おやこ劇場 発足総会 (会員719人/会費700円) <帯広市西17条南3丁目1-30>		
1995	9.25 事務所移転 <帯広市西13条南11丁目3-2> /月会費1,000円/人		
2003	4月より会費自動振替開始		
2005	4月「かるちゃーくらぶ」、緑丘小にて「あそびの宅Q便」開始 (文科省子どもの居場所づくり 地域子ども教室推進事業)		
2006	4.9 法人設立総会 5月季刊広報誌「ぶれいおんたいむ」創刊 7.7 登記完了～NPO法人ぶれいおんとかち発足 10.23 事務所移転<帯広市西20条南5丁目18-2>	152	
2007	1月より新「1.2.3ひろば」開始 12月より月会費値上げ (シングル1,200円、ファミリー2,200円)	1	150
		2	
2008	5月より「あそびの宅Q便」明和小編スタート(帯広市子どもの居場所づくり事業) 7月より外あそびのひろば「はらっぱくらぶ」開始	3	141
2009	3.14 「100万回生きたねこ」<十勝おやこ劇場協議会閉会公演> 6月～「ぶれいおんたいむ」カラー化 (帯広市市民協働のまちづくり支援事業)	4	132
2011	11月～入会金廃止 (シングル500円、ファミリー1,000円)	7	126
2012	5.20 40周年プレ企画こどもらんど「39mビザをつくろう!」		135
2013	4.21 40周年記念レセプション&記念公演むすび座「おまえうまそうだな/ねずみのすもう」 7.1 帯広市よりファミリーサポートセンター事業受託 3月～8月 40周年記念壁画プロジェクト「はくらはみんなアーティスト」 9月 ファミリーサポートセンター事業開始	8	146
2014	4月 サポーター会費改定 個人5,000円→3,000円/年、優待券廃止 11月～「多世代コミュニティカフェSUN cafe」(生命保険協会助成事業)～2015.8月まで全10回開催	9	148
		10	
2016	3.27 法人化10周年記念レセプション 8.28 10周年記念公演「ピノキオ」(むすび座)	11	136
2017	10月 ワンテーマ情報誌「コノコト」創刊 11月よりシングル会員要件変更 (未就学児まで無料登録可) 12月 こどもミーティング (のち、子供連合協議会C.U.) 開始	13	134
2018	4月 帯広の森内「あしあとの森」事業開始/帯広の森 森づくり団体加盟 6月 プレイセンターにじっこ開始(帯広市市民協働のまちづくり支援事業) 7.26 認定NPO法人認可 12月 北海道より「ほっかいどう未来輝く子育て大賞」受賞	14	139
2019	5月 「森のこどもらんど」帯広の森・はぐくむ初開催 7月 ファントレイジング部発足 緑の募金 (子どもたちの未来の森づくり事業) 助成事業 (初年度) あしあとの森 12月 非営利組織の第3者組織評価 (グッドガバナンス認証) ベーシック評価基準クリア	15	136
2020	1月 土曜開放開始 3月 WAM助成事業(初年度) プレイセンターにじっこ「プレイセンターで親も子も地域も育つ」 11月 内閣府【子どもと家族・若者応援団「子育て・家族支援部門」内閣府特命担当大臣表彰】受賞 12月 非営利組織評価【グッドガバナンス認証】取得	16	140
2021	9月 ドコモ市民活動団体助成事業「赤ちゃんの日」「小さなあしあとの森」「CU/土曜開放」「冬・夏お泊り会」	17	149
2022	1月 組織・運営改革検討委員会「持つ会」設置 8月 町内会共催「こども夏まつり会」初開催 ※ドコモ市民活動団体助成事業		154
2023	1月 組織・運営改革検討委員会「持つ会」提言書を作成し、解散 4月 キリン福祉財団 キリン・地域のちから応援事業「土曜地域開放」「アトリエスペース」「子ども参画」 帯広市市民提案型協働のまちづくり支援事業「赤ちゃんの日」 6月 全国森林レクリエーション協会「地域美しの森づくり活動コンクール」特別奨励賞受賞	18	143

主なメディア記録



「『こども家庭庁』発足！
十勝の子育て現場の期待」
NHKテレビ放送 ほっとニュース
ぐると道東！



「社会的処方MAP
十勝帯広編 Vol.1」
発行：一般社団法人 CANnet

スタッフ紹介

【事務局スタッフ】



【ファミサポスタッフ】



【運営委員メンバー】



2022年10月 総会にて

To 第19期 2023.9～2024.8

今期、ふれいおん・とかちは前身のおやこ劇場の創立から50周年を迎えます。この間、子どもや子育てを取り巻く環境にも大きな変化がありました。いつの時代にも子育ては、たくさんの人の輪の中で、大らかに子どもを見守り合い、育ち合える関係性に支えられています。人と人との緩やかなつながりが、安心できる丈夫なネットワークになれば、子どもも親も自分らしく暮らしやすいまちになるでしょう。活動の基盤である資金と担い手（人）を安定的に確保していくことが大きな課題であることに変わりありませんが、子どもと共におもしろがる知恵や工夫の余地を生み出しながら、安心できるみんなの居場所づくりに取り組んでいきます。

そうして、子どもと一緒にワクワクドキドキ心躍らせ、笑いあえる日常の風景こそが、平和な世界なのでしょう。こんな世の中だからこそ、活動を通じて「人は信頼に足る」こと、「世界は美しい」ということを、子どもたちに伝えていきたいです。